

さいたま市政ニュース

浦和駅高架化事業情報

株式会社アトレが、浦和駅高架化工事終了後の商業開発を行うと発表。他には恵比寿、品川、上野、秋葉原などの駅商業施設を手掛けている。高架下のほか西口駅前に6階建ての駅ビル建設も予定。平成26年春に第1期オープン、1年後にグランドオープンの予定。



小柳よしふみ 地域活動

障害者DPI
全国大会へ参加

障害をもつ方々の全国集会をさいたま市で開催。交流会で多くのみなさまからの声をうかがいました。

被災地
ボランティア

岩手県山田町の仮設住宅で配膳作業。漁港にて復興支援力キ養殖オーナーに。



浦和ライトダウン2012

浦和駅周辺での環境啓発運動。今回は冬至の日に開催予定です。



さいたま市浦和うなぎまつり

今年とうなぎが品薄で大変でした・・・。



ごみゼロ運動

5月30日は、ごみゼロの日。地域で清掃活動が行われました。

みなさんのご意見・ご要望をお待ちしています

お名前 _____ TEL _____

ご住所 _____

このままFAXでご送信下さい。FAX **048-799-3233**



「後援会イベントでハイ、チーズ！」

市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

E-mail info@koyanagi.jp

ホームページ http://koyanagi.jp/

ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/



3世代による子育て事業の推進

市民が市民活動に参加しやすくするために「さいたまマッチングファンド」を設置し、基金を活用した助成制度を実施している。今回「3世代による子育て支援事業」がそのテーマに選ばれ、支援事業も決定。小柳が提唱し、会派として代表質問でも取り上げた「3世代住宅の推進」にもつながるテーマ。

学校通学路の見直し (ZONE30)

京都府亀山市で4月23日に起きた集団登校中の交通事故を受けて、さいたま市教育委員会でも翌24日にすべての小学校において、通学路の危険個所の緊急点検の通達を出した。結果、学校から154箇所の改善要望が出され、本年度、順次整備を進めていくことに。

こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ http://koyanagi.jp/ ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/

小柳よしふみ 市政レポート 2012.7 vol.5

懸案事項に次々着手の

6月定例会が終了

市議会議員としての活動も2年目に入りました。みなさまの思いが市政に届くよう、心新たに活動してまいります。

「にぎわい創出」から「安心・安全」な街へ変更

平成24年度最初の定例会である6月議会が29日に閉会しました。さいたま新都心駅前の土地(8-1A街区の一部)取得のための19億円余りの補正予算や、本庁舎整備のための審議会の設置条例など、市政の懸案事項への着手が明確になったと言えます。

8-1A街区については、「にぎわい創出」から「安心・安全」な街へとコンセプトの変更を決定し、それに基づいたさいたま赤十字病院、県立岩槻小児医療センターなど複数の施設の移設や新設の方針を、今後検討していくこととなります。埼玉県との共同事業。さいたま市がきちんと存在感を主張できるよう、議会としての役割も重要となります。

市役所本庁舎のあり方を審議

また、本庁舎(市役所)整備について検討する審議会が設置されます。庁内の検討委員会の検討議論を経て、外部の有識者や市民代表者をメンバーとする審議会が設置をされます。これは、移転の検討を始めるということではありません。これからのさいたま市において、本庁舎の機能や規模、位置はどうあるべきかの検討が始まるということです。市庁舎の新築には、膨大なコストもかかる等、様々な議論もあります。2年程度の議論を経て答申が出される見込みです。今後の審議会のメンバー選定や議論の内容に、注目していきたいと思います。

副市長は2名体制で

本年4月より副市長1名体制で、1名は空席となっていました。今議会において、1月から部長級の任期付き職員となっていた木下達則氏(64)の副市長就任が承認されました。木下氏は、県との連絡調整協議会などで手腕を発揮されてきました。清水市政の1期目最終年度における、要の人事と言えます。

6月議会が終わると暑い夏を迎えます。梅雨や暑い夏の季節は、熱中症対策など体調にご留意ください。小柳よしふみは、この夏も元気に活動してまいります。一番近い議員として、みなさまの想いとともに走ります。小柳よしふみの活動に、どうぞご期待ください。



- 昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大学商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23年5月よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 市民生活委員会所属。



毎月第3日曜16時から浦和駅西口駅頭でお伝えしています。

さいたま市TOPICS

コンビニで各種証明書が
発行可能に

住基カードを使用し、セブンイレブンにて発行が可能に。発行可能なのは、住民票、印鑑登録証明書、納税証明書など。今後他のコンビニにも拡大予定。詳細は市のホームページをご覧ください。

本庁舎整備の審議会設置

木下達則氏が
新副市長就任

詳しくは
左記参照

「安心・安全」の街へ
コンセプトを変更

小柳よしふみが会派を代表し、

6月議会提出議案に対する質疑を行いました。



さいたま新都心8-1A街区用地

本予算でなく、なぜ補正予算で購入？



Q: 土地購入19億円支出の理由は？

A: 土地再生機構から県と2分の1ずつ土地を購入し、さいたま赤十字病院へ用地として貸し付けを行う。

Q: 県は当初予算に計上。なぜ、本市は補正予算での計上になったのか？

A: 予算編成の進行具合や、議会日程のために対応ができなかった。

Q: 決算が確定していない段階で繰越金を使うことは問題では？

A: 平年並の実質収支(50～70億円)確保のめどがついたため。執行に不安はない。

委員会ニュース

市民生活委員会にて、質疑を行いました。・・・・・・・・・・・・・・・・

市民の環境啓発活動への支援 新しい支援の形を

Q: 市が支援している環境啓発事業の数は？

A: 共催、事業協力、名義後援など含めて23件。幅広く後押しする方針。

Q: 今後の新しい支援の方向は？

A: さいたま市環境教育基本法を策定し、子どもたちへの環境教育活動を進める。



小柳の視点 イベント事業者間の情報交流、情報発信の推進役としての支援など、新たな支援の形も検討の余地あり。

消防団への支援 さらなる強化を要望

Q: 消防団の拠点施設の現状調査結果は？

A: 表1の通り。耐震未整備、詰め所なしは、7か所。必要予算約1億6千万円。



表の××(詰め所もなく、車庫の耐震性も不十分)の分団から優先整備。

表1		車庫の耐震性		
詰め所の有無	×	×	○	計
	○	14	32	46
計		21	41	62

※詰め所×で耐震性○は、打ち合わせや災害時に待機できる詰め所はないが、ポンプ車の車庫の耐震性はある、の意味。

エネルギーセキュリティ 民間参入を促進せよ

Q: 本市の市有施設の電力自給率は？

A: 諸条件によるが、おおよそ30%。

Q: 電力供給契約におけるPPS(特定規模電

本庁舎整備審議会の設置条例 審議のための条例って？

Q: 審議会の目的は？

A: 合併協定書は議論の重要な出発点であるが、合併後10年で変化した社会環境も考慮し、市民サービスにとって最良の本庁舎の在り方を検討する。

Q: 審議会が審議する内容は？

A: 本庁舎の機能、規模、位置など。検討に2年以上の期間は必要。

Q: 市としての最終決定へのプロセスは？

A: 審議会の答申の具体性による。市民の合意形成や議会の議決を経て、具体化してゆく。

駒場の女子サッカーの聖地化 本気で取り組んで！

Q: 取り組みの現状は？

A: 浦和駒場スタジアム改修後のリニューアルイベントでの地元女子サッカーチームの試合や、U-20女子ワールドカップの8試合を予定。

Q: ライバルは？

A: 国立競技場や西が丘サッカー場などあるが、聖地と呼ばれるには、市民レベルでの女子サッカーの浸透が重要。

Q: 地域への働きかけは？

A: U-20女子ワールドカップにおいて観戦、ボランテ

女子中学生のサッカー一部活動^{支援事業} 聖地化を視野に

Q: 国からの公募事業への素早い対応は評価できる。サッカーを通じた健全育成のほかに、市が目指す女子サッカーの聖地化なども視野に入れたものか？

A: 中学校女子の部活動環境を充実させることにより、女子サッカーの振興も図る。将来的には、駒場スタジアムの聖地化にも貢献してゆけると考えている。



ィア参加、関連イベントの開催などを検討中。

Q: 女子サッカー界の課題のひとつに、観客動員がある。これをクリアすることは、大きなポイントになると考えるが？

A: 例えば、教育委員会を通じて児童生徒さんへ呼び掛けたり、交通事業者へ協力を依頼するなど、広報に努めてゆく。

小柳の視点 本気の取り組み、部局を横断した全庁を挙げてのメッセージの発信が重要。また、議会の後押しも必要。

小柳の視点 PPSを取り巻く環境の変化を把握し、情報を得ることが重要。民間業者が応札しやすいように、入札時期を早めるなど環境整備の工夫も必要では。



調査・研究活動

スマートハウス視察

特区指定に伴う実験ハウス。実際の生活データを今後に生かす。埼玉大学正門前。



被災地視察・研修

岩手県庁にて震災がれきの処理について。仙台市の焼却施設にて震災がれきの管理、処理状況の確認。



震災がれき受け入れに関する勉強会

池田こみち先生をお迎えして、受け入れ慎重派の立場からの講義。



団体プロジェクトチーム

会派として、様々な団体や業界の方との意見交換を積極的に行う。小柳は、企画や意見交換会のコーディネーター役を務めている。